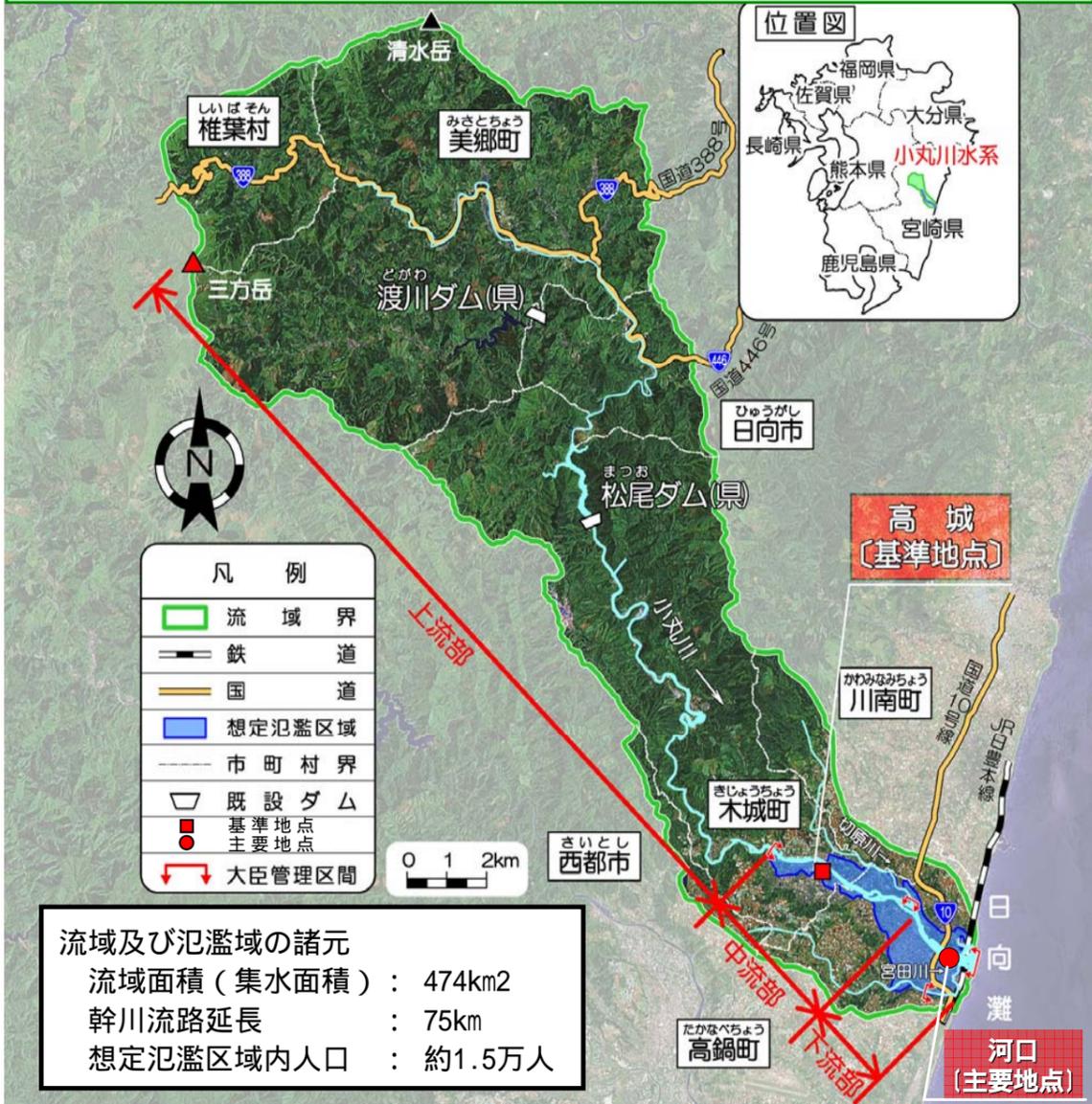


# 小丸川水系河川整備基本方針の概要

## 流域及び河川の概要

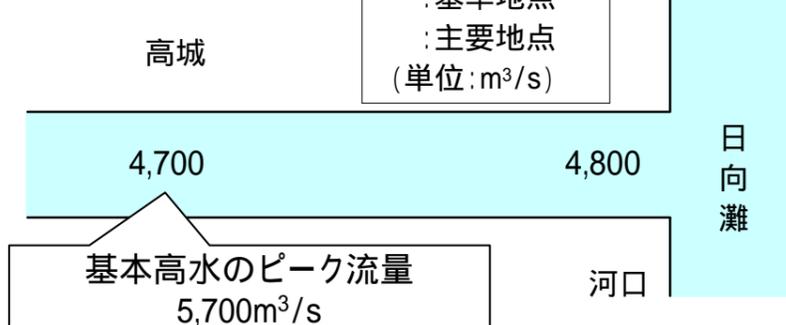
流域の大半を急峻な山地が占め、中流部から上流部の河床勾配は約1/600～1/100であり、九州地方有数の急流河川。中流部から下流で築堤区間となっており、急流部を一気に流下した洪水がひとたび氾濫すると甚大な被害が発生。上流部の急峻な山地は崩壊しやすい四万十層群で構成されており、土砂供給が多い。



## 災害の発生防止又は軽減

工事实施基本計画策定以降、既定計画の基本高水のピーク流量を超過する洪水が頻発。このため、既定計画を見直すこととし、全国バランス等を考慮しつつ、流域内の人口・資産等を踏まえ、計画規模を1/100とする。流量データによる確率からの検討、雨量データによる確率からの検討、既往洪水による検討、1/100確率規模モデル降雨波形による検討等を総合的に検討して、基本高水のピーク流量を基準地点高城で5,700m<sup>3</sup>/sと設定。

### 【流量配分図】



高城地点の洪水の流れ



基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設洪水調節施設の有効活用で対応

河床の安定や既設構造物への影響等を勘案し、河道掘削により流下能力を確保

洪水時の流速や河道状況等についてモニタリングしながら、適切な河川整備・維持管理を実施

山腹崩壊、流木の発生、ダム堆砂の進行、濁水の長期化、海岸汀線の後退など土砂移動と密接に関わる課題に対処するため、上流から海岸までの総合的な土砂管理の観点から、粒度分布と量も含めた土砂移動の定量的な把握に努める。



## 河川環境の整備と保全

下流部では、ハマボウ、コアマモ、アカメ等が生息・生育・繁殖する入り江やワンド等の保全に努める

中流部では、貴重な湿生植物が自生する河道内の湿地やアユの産卵場等に利用される瀬や淵、コアジサシの営巣地等に利用される砂礫河原の保全に努める

上流部では、良好な溪流環境等の保全に努める



## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

既存施設の有効活用を図るとともに、今後とも関係機関と連携して水利用の合理化を推進するなど、必要な流量の確保に努める

高城地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、通年概ね2.0m<sup>3</sup>/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする